

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900255		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ咲が丘		
所在地	千葉県船橋市咲が丘3-2-1		
自己評価作成日	平成23年3月3日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会福祉士ネットワーク・ヒューマンレインボー		
所在地	千葉県船橋市本町4丁目31番23号		
訪問調査日	平成23年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフはその方の「出来ること・出来ないこと・出来るであろうこと」を考え、りが自分自身の生活を営むことができるよう取り組んでいます。 ・常にご利用者様の有する能力を発揮できるよう考え、スタッフがご利用者様に「ありがとうございます」と伝えることができるよう取り組んでいます。 ・スタッフは「あたりまえの生活・普通の生活とはなにか」を考え、ご利用者様のペースに合わせ、家庭的な雰囲気の中で「ゆったり」と支援しています。 ・四季折々の行事や節句、庭や花壇、食事等を通し、季節を感じていただくことが出来るよう取り組んでいます。 ・地域の中の「家族」として暮らしていくことが出来るよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・新築のグループホームで、スプリンクラー、バリアフリーの床、道路に面した駐車場、広い庭や花壇を有していて、快適な生活環境が保たれている。隣にはスーパーがあり、毎日利用者が食材を買いに行くことが出来る。また、庭で栽培した野菜を献立に取り入れ、調理、掃除など家庭で行われていた生活が楽しく営まれている。 ・管理者、ユニットリーダーとスタッフが、きめ細かいコミュニケーションで、「出来ること・出来ないこと・出来るであろうこと」を考えご利用者様一人ひとりを丁寧に支援している。 ・会社からのきめ細かい支援体制にも恵まれスタートして1年が経過しようとしておりますが、今後とも認知症に対する研修や情報を取り入れ、ご利用者様の支援に邁進するとともに、経験の浅いスタッフの育成・次期リーダーの養成等を期待したい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、職員は“ほほえみの誓い”を唱和し、日々の生活の中で理念を共有している。 ・管理者と職員は常にコミュニケーションを取り、笑顔を大切に、入居者の“出来ること、出来ないこと、出来るであろうこと”を常に考え支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者、ユニットリーダーは、スタッフが日々の支援の中で理念の実践が図れるよう、都度具体的にきめ細かく伝えている。スタッフが「利用者の出来ること、出来ないことノート」に、今出来ること、今必要な支援の具体的な内容等を記入し、それをスタッフ全員で共有し理念の実践に反映させている。 	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・八木が谷小学校の体験学習や、三咲小学校、八木が谷中学校の職場体験学習や校外学習などの授業の場にホームを提供する用意がある。 ・地域の祭りなどに参加し、近隣の方々との交流や、町会の活動(ごみ拾い等)に参加。 ・こども110番緊急時立ち寄り所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事、二和商店街の夏祭りや、健康祭りに参加している。 ・家族の方の協力によるアニマルセラピーや、ボランティアによる月1回の絵手紙が楽しく行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに、地域の小・中学校に「体験学習や校外学習などの場」としてホームの提供を伝え、小学校保護者会には「こども110番緊急時の立ち寄り所」の登録を行うなど、地域との交流計画がなされています。町会、自治会も含めて地域住民の一員として積極的な関わりを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方からの介護相談等実施している。 ・地域の方や小中学生向けの認知症サポーター養成講座、地域での定期的な「介護相談日」等を計画中。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では「ほほえみ咲が丘」の状況を、写真・DVD等をまじえ報告をし、さまざまな意見を運営に活かすよう努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議メンバーは民生委員、地域包括支援センター、在宅介護センター、自治会長、家族(最低1家族以上)の方々と、ホーム開設後4回行われている。毎回、ホームでの取り組みを写真・DVDなどで分かりやすく伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、年間6回計画されているとのこと。行政や家族・地域等の関係者の理解と支援を得てさらにサービスの向上に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・船橋市高齢福祉課には気軽に相談に乗っていただいている。また船橋市は船橋市グループホーム連絡会とも密接にかかわっていただいております。ハード面からソフト面においても様々な支援していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・船橋市グループホーム連絡会の研修には4回(スタッフ向け)他にも3回の研修に参加している。 ・船橋市ホームページ上の「施設の空き情報」を登録するしくみ(事業者がダイレクトに入力更新出来る)を積極的に活用している。 	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・何が身体拘束に当たるか正しく理解できるよう社内研修、外部研修等に参加し、またホーム内においても研修の機会をもうけ話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの外出の特性や傾向を把握し、玄関の鍵はかけずに自然な見守りができる様工夫している。 ・また、年2回の研修を行い、管理者、ユニットリーダーと職員の日々の密なコミュニケーションの中で、スピーチロックも含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止マニュアルがあり、管理者は千葉県身体拘束廃止研修(基礎・専門・実践課程)を修了しており、ホーム内においても、研修や話し合いの機会を設け、安心して相談できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・職員は社内研修、ホーム内研修等で学んでいる。・管理者は個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご見学時、ご契約時等に説明を行っている。 ・契約時には項目ごとに納得いただいたか確認をし、疑問や不安がないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・管理者やスタッフは日常的に意見、不満を聞き、対応している。 ・運営推進会議を利用し、ご家族が外部者へ表せる機会を設けている。 ・定期的にアンケートを実施し、運営に反映している。	・運営推進会議を開催する際には必ず事前に家族への参加を呼び掛け、家族が意見や要望を表せるよう積極的な取り組みが見られる。 ・また、会社全体で年1回利用者アンケート調査を行い、利用者や家族等の意見を聞き取り、事業所毎の分析を行い事業所の運営改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ホーム会議、ユニットカンファや個人面談の際に聞く機会を設けている。また行事の担当などを通してスタッフ自ら運営について考え、実行している。 ・意見の出しやすい環境作りを努めている。	・管理日誌(全体の申し送り)で、全体の業務分担の話し合いや見直しを行っている。管理者、ユニットリーダーがタイミングを見てスタッフの気になる点などを自然に聞きだしている。また、ホーム会議録の供覧などに、意見の出しやすい配慮や情報の共有化が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	・管理者はスタッフの勤務状況を把握し、働きやすい職場の整備に努めている。 ・個人面談を実施し、一人ひとりが目標を持って働くことが出来るように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内のエリア研修、ホーム内研修、職場研修を実施し指導育成を行っている。 ・また外部研修に参加できるようシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・船橋市グループホーム連絡会への出席や、勉強会への出席が出来るよう調整し、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・見学、面談時にはご本人、ご家族からご事情をゆっくりうかがっている。聞き取りが難しい方はご本人の様子を観察するように努めている。 ・入所前に関わりのあった事業所やケアマネジャーと連携をとり、ご本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談の段階からご家族の困っている事、不安に思っている事、要望等に耳を傾け、助言や説明を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。 ・事前面談をふまえ、状況、要望を理解したうえで、ケアプランの作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ともに生活する中で、ご本人が活躍できる場面を活かし、相互に支えあう関係を築いている。 ・昔ながらの習慣等、スタッフは日常的に教わり、生活の中の出来事を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・通院の協力を依頼する。 ・行事へのお誘いや運営推進会議、地域活動の参加をお願いしている。 ・情報の交換や協力により、家族の思いを共有し、更なる信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族やお友達への電話連絡や手紙のやりとりなど支援している。 ・友人やご家族が気軽に訪問することが出来るよう支援している。	・鎌倉彫などの趣味の継続や、手芸サークルでの交流がある。2階の利用者の方は馴染みの美容院へ毎週1回家族と行っている。	・近くのスーパーに毎日買い物(2人程度)に行くこと、公園に散歩に行くこと等で、新しい地域との関係づくりが期待できます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者様の関係を見ながらリビングの席の配置を考えている。 ・ご利用者様同士でお話が弾んでいるときは、スタッフは必要以上に介入しないようにしている。 ・時に口論になる時もあるが、危険のないように見守り、必要時に介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去時の情報提供等、退去後の他サービスの利用がスムーズにいくように配慮している。 ・退去後のご家族の相談には随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・スタッフが日常の会話や仕草などから思いを汲み取り、カンファレンス等で情報を共有し、ご本人の意向に沿うよう努めている。 ・担当者会議シートやセンター方式のシートの活用により、言葉に表れていない要求を汲み取ることが出来るよう検討している。	・担当者会議シートやセンター方式のシートの他に最新の「ひもときシート」を活用する等積極的な取り組みが伺える。また、利用者一人ひとりの一連の動作から利用者の思いをくみ取り、シートに具体的に記入している。それをスタッフが共有し日常の生活場面で利用者の意向に沿った支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居面談時の情報や、ご家族の面会時に情報を得、自宅での習慣や役割をホームでも再現できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ケア記録等で一人ひとりの過ごし方や心身状況を把握し、変化等は管理日誌や申し送りにて把握できるように努めている。 ・スタッフは“出来ること、出来ないこと”を把握するよう努めている。 ・センター方式のシートを必要に応じて活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・各入居者の担当職員、その日に出勤している職員、ご家族、ユニットリーダーおよび計画作成担当者で話し合い、介護計画を作成している。 ・必要に応じて医師や看護師、在宅時に関わりのあったケアマネ等にも意見を聞いている。	・カンファレンスは1階は必要に応じて随時行い、2階は利用者3名を1回として1月に2回行い1. 5カ月で一回りする方式で行っている。一人ひとりの状況に応じた精神面、便秘改善等に対して医師とのきめ細かい情報交換により薬の見直しも図られ介護計画に反映されている。また、スタッフからの情報をシートに集めて有効に活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケア記録に日々の気づきやご本人の発言を記入し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・必要な方には訪問マッサージの提案や利用のお手伝い、買い物等の支援、またボランティアの活用を行っている。 ・その時々ニーズに対し可能な限り対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・公民館や図書館を利用したり、地域のボランティアの参加や訪問理美容の利用、消防署に来ていただいて地域の方の参加での消防訓練を行なっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人ご家族の希望により、以前からかかりつけ医を利用されている。 ・またご利用者の同意をいただいた方には近隣のクリニックによる訪問診療を実施し、身体状況によっては往診、通院等、支援している。 ・訪問看護により日常的な健康管理を行っている。	・一人ひとりのこれまでの受診状況を把握して、利用者や家族の希望に応じてかかりつけ医や希望の近隣の病院への受診を、家族と同行したり、代行等で支援している。また、訪問看護は、2月から医療連携加算対象で、船橋市の場合一人20分週1回の定期的な健康管理がなされている。褥瘡4度で退院してきた利用者の看護を行い3ヶ月で治癒させている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・クリニックの看護師とは気軽に相談でき、訪問看護師とは24時間の連絡体制が出来ている。 ・スタッフは助言を日々の健康管理に活用している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には主治医からご家族とともに病状説明を受け、治療方針や退院に向けての情報交換や相談を密に行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご本人ご家族にはあらかじめ方針を尋ね、病状が変化した場合は医療と一緒に意向を伺い、方針を共有している。 ・ホームでの生活をお望みであるならば、“ホームで出来ること・出来ないこと”を説明し、全員で方針を決定している。	・入居に際して、本人や家族に説明する「重度化した場合における対応に関する指針」の中で看取りに関しての説明が分かりやすく記入されている。早い段階から本人・家族との話し合いで、「ホームで出来ること・出来ないこと」を話し合う丁寧な取り組みが認められる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時マニュアルを作成している。 ・救急救命講習の受講をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回、近隣の消防署に来ていただき、避難訓練を行っている。 ・日頃より近所の方々に協力をお願いをしている。 ・災害時に備蓄している。	・消防署との連携により、すでに夜間対応の訓練も行われている。災害用に飲料水、レトルト食品等の備蓄も行われている。運営推進会議で防災・スプリンクラーの報告等を行い地域との連携を推進している。また、	道路の向かい側に、新たに消防団が建設中とのこと、地域の協力体制の強化が期待できます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーや誇りを損ねるような声かけや対応をしないよう注意している。 ・理念でもある“尊厳と自立を守る”ための研修をたびたび行っている。 ・個人情報保護法の理解のため研修を行っている。	・日常支援シート、センター方式シート、出来ること出来ないことシートで情報をスタッフが共有している。管理者、ユニットリーダーとスタッフとのきめ細かいコミュニケーションの中で、利用者一人ひとりが自己決定しやすいように丁寧な言葉かけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・一人ひとり、思いや希望を表すことが出来るよう、スタッフは日頃のコミュニケーションから意思を汲み取り、自己決定できるよう工夫し心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの生活のリズムやこれまでの暮らしのペースを取り入れ、それに合わせて生活していただける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご自宅で着ていたものをお持ちいただき、新たに購入の場合は買い物に行き購入できるよう支援している。 ・理美容はご本人の望まれるように支援しており、ご希望により訪問理美容を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご本人の希望や力に合わせて、スタッフと一緒に食材の買い物、準備、調理、片付けを行っている。 ・季節に合わせて行事食、外食、またリクエストをとり“お楽しみ食事会”“手作りおやつ”など行っている。	・食事の献立は利用者が料理本などから選んで作成している。食材は、希望者2名とスタッフ1名で隣のスーパーに行き毎日3食分を調達している。利用者によってはレジでの支払も行っている。1階では、全員が楽しめる様に、準備、調理、片づけなど曜日毎にリーダーを決めて実施している。月に1回の手作りおやつも工夫して行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・内容や量について観察、記録しており、水分等少ない場合は管理日誌、申し送り等で情報を共有し、ご利用者の状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、その方の状態に応じた口腔ケアを支援している。 ・義歯の方は夜間洗浄剤に浸けて清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄のパターンを記録により把握し排尿、排便パターンを探り、本人に合った方法で排泄を支援している。	・センター方式からのヒントを工夫し、さりげないトイレ誘導を行い、健康チェック表、介護記録、トイレ・パット回数表により、時間、回数、量がトリプルにチェックされている。また、夜間のトイレに問題がある利用者に対しては、排尿量等の記録と共に統一した言葉かけの記録を残し、その記録を医師に提供し排尿問題を医師と連携して解決しようと努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘を予防、解消するために繊維質の食物や牛乳等取り入れたり、水分を十分に取り、体操や散歩等で体を動かしていただけるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴の曜日や時間はスタッフの都合ではなく、ご本人がこれまでご自宅で入っていた習慣に合わせてたり、ご希望を取り入れて行っている。 ・季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯など季節を楽しむ事が出来るよう、また入浴剤等も利用している。	・利用者の希望によって週2回から毎日まで入浴ができるような体制がとられている。時間も11時から18時までの間であれば、本人の希望やタイミングに合わせて入浴ができる。また、トイレから直接浴室に行ける様な設計や、床はノンスリップの籐調柄が選ばれ、手すりが縦横に細かく設置してあるなど使い勝手の良い工夫が見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中でもご本人の状況に応じて居室へ誘導しお昼寝をしていただく。 ・夜間に眠れない方には、日中に運動や体を動かしていただいたり、お散歩や買い物にお誘いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・スタッフは薬について理解している。 ・個人ファイルに薬の説明が閉じてある。 ・いつでも薬の確認をすることができるように個人のお薬ファイルがある。 ・処方が変わった時や臨時に処方された場合は管理日誌に記載し、説明書を管理日誌に綴じ、全員で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・スタッフはその方の“出来ること、出来ないこと、出来るであろうこと”を考え、ご利用者の一人ひとりが自分自身の生活が出来るように支援し、スタッフがご利用者に「ありがとう」と感謝の言葉を伝えることが出来るよう努めている。 ・その方の生活歴から、好みや趣味を実現できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や散歩など外出できるよう支援している。 ・季節を感じる外出やご本人の希望にそった支援をしている。 ・ご家族と一緒に遠出をしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光バスで柏市までお花見に行ったり、誕生会には誕生者のリクエストに応じて中華レストランやお寿司屋さん、さらにはカラオケに行くこともあり、外出を楽しく演出している。それを、写真に残している。家族とのその時々のお外出にも柔軟な対応が図られている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の方針としてホームで管理しているが、買い物時に支払いが可能な方は、お財布を渡して支払いを行っている。 ・手元に現金がないと不安になる方には、小額の現金をお持ちいただいている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に応じて電話をかけたり、ご本人が書いた手紙を送ったりしている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム内は24時間換気を行い、照明やエアコンは居室や場所ごとに調節できるようになっている。 ・リビングにはイスなどを工夫して配置し、ゆったり思い思いの場所で過ごすことができるように配慮している。 ・庭や花壇を利用し、季節を感じるできるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニチイ専用の座り心地の良い椅子(杖が立て掛けられる)が配置され、居室と共用部はバリアフリー、スプリンクラーが設置されている。扉は手を挟まない様な安全設計がなされている。採光が良く、木調の温かみのある床材が使用されている。トイレも車椅子対応、男子小便専用器、共用トイレなど、手摺りが使いやすい場所に取り付けられ水回りも使いやすい様に工夫されている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファや和室でくつろぐことが出来るように工夫している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居に際し、出来る限り使い慣れたなじみの物を持参いただくようお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室は、クローゼット、エアコン、カーテンが備え付きとなっており、換気口もワンタッチ開閉できるものを使用している。一人ひとりの居室は、本人の好みが最大限尊重されている。また、スタッフの支援で居心地よく工夫されている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には表札をつけたり、お風呂には暖簾を下げて混乱を防いでいる。 ・バリアフリーで安全に暮らすことが出来るよう工夫している。 		